

2022年12月8日

東日本旅客鉄道株式会社

ロンドンの商業イベントに出店し、日本の地域の魅力を発信します ～第一弾は新潟をテーマに、ロンドンのキングスクロス駅周辺エリアの商業イベントに出店～

- JR東日本はグループ経営ビジョン「変革2027」に掲げる「地方を豊かに」を実現するための取り組みの一つとして、海外市場における「日本のものづくりや体験を切り口とした新たなくらしづくりの提案」をコンセプトに、現地での商品販売と日本の地域の魅力を発信します。
- 第一弾の取り組みとして、ロンドンのキングスクロス駅周辺エリアの商業施設で開催されるイベントに出店し、新潟・燕三条エリアの地域事業者である株式会社ドッツアンドライズと連携して開発した上越新幹線開業40周年記念商品を現地で販売します。
- その他にも、新潟の魅力発信や鉄道によるお得な旅のご案内、「新幹線YEAR2022」と連携した新幹線グッズの販売等、日本の鉄道のPR及びインバウンド拡大につなげます。

1. 出店概要

イベント：Shotengai Market

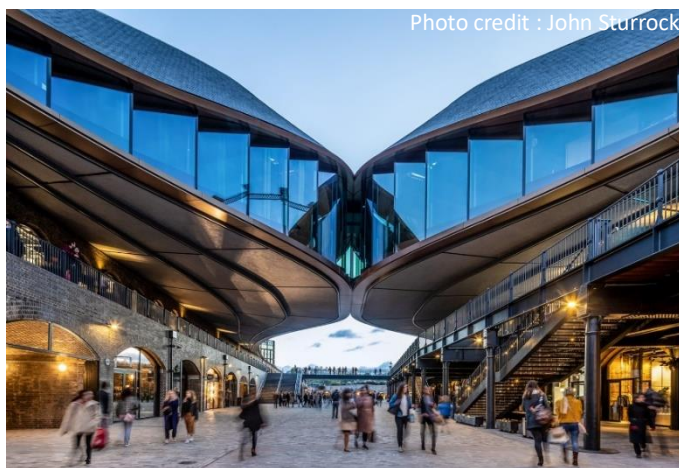
開催日時：2022年12月16日（金）～18日（日）

（営業時間 16日：12時～19時 / 17・18日：11時～18時）

開催場所：Coal Drops Yard内Lower Stable Street（キングスクロス駅徒歩5分）



Shotengai Market



Coal Drops Yard

Shotengai Market について

日本特有の地域密着型のストリートマーケットである“商店街”をテーマにしたマーケットです。株式会社ビームスの英国法人であるBEAMS & CO UK LTDが企画・編集しており、出店する地元企業やロンドンコミュニティの絆を深めることを目的としています。

Coal Drops Yard について

ロンドンの中心駅キングスクロス駅周辺でかつて石炭の荷下ろし場だった建物をリノベーションした商業施設です。



出店ブースイメージ

2. 出店内容

○上越新幹線開業 40 周年オリジナル商品販売

JR 東日本新潟支社と株式会社ドッツアンドライズは、アイデアコンテスト EkiLab「ものづくり AWARD」で受賞した作品を商品化し、上越新幹線開業 40 周年にあわせ販売開始しました。今回のイベントを通じて上越新幹線開業 40 周年オリジナル商品を英国でも販売します。なお、英国販売限定の特別デザイン入りのおちょこを販売します。

○新潟の魅力や日本の鉄道によるお得な旅の PR

「EkiLab 帯織」がある新潟の魅力をもつと、JR EAST PASS のご案内を通じて日本の鉄道によるお得な旅を紹介し、英国からのインバウンド拡大へ向け取り組めます。

○日本の鉄道グッズ販売および「JR 東日本トレインシミュレータ」の PR

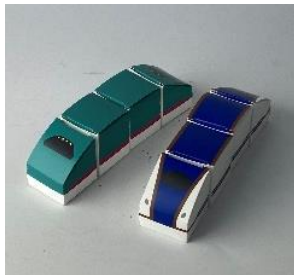
「新幹線 YEAR2022」と連携した新幹線グッズを中心に日本の鉄道グッズを販売します。英国で日本の新幹線の魅力を発信するとともに、イベントでの販売を通じて英国内での日本の鉄道グッズのニーズを模索します。また、JR 東日本が提供する「JR 東日本トレインシミュレータ（英名：JR EAST Train Simulator）」の PR 映像を流し、英国のお客さまにも宣伝します。

○デジタル自販機と連携した取り組み

今回のイベントの参加に合わせて、ロンドン事務所が英国中で展開している自販機約 40 台を活用し、デジタルディスプレイで新潟の PR やイベントへの出店告知を行います。合わせてイベントで販売するグッズを一部のデジタル自販機でも期間限定で販売します。



上越新幹線おちょこ



新幹線はこノート



フラッグイメージ



新幹線グッズ



EkiLab 帯織について

2020 年 10 月に信越本線・帯織駅に開業したものづくり体験・交流拠点施設です。無人駅である帯織駅を地域創生の拠点として有効活用するため、クラウドファンディングを経て開業しました。開業以来、多くの会員を集め、ワークショップの開催や新製品開発など、県内外のユーザーと燕三条のものづくり企業・技術とをつなげる取り組みを推進しています。

株式会社ドッツアンドライズについて

「燕三条地域の産業発信地交流拠点を創りたい」との思いから設立され、「EkiLab 帯織」の運営を行っています。

3. 今後のビジネス化に向けて

ロンドン事務所では「変革 2027」に掲げる「地方を豊かに」を実現すべく、当社グループの総合力を活用した新たなビジネスの可能性を追求します。本イベントへの参加はビジネス化へ向けた第一弾として位置づけます。また、今後も、「日本のものづくりや体験を通じた新たなくらしの提案」をコンセプトに、海外日本ファン向け会員サービス「JAPAN RAIL CLUB」との連携など、ビジネス化へ向けた様々な取り組みを推進していきます。